



佐倉拠点
ストオ1日目

闘熱の血、決戦ストに突入

日刊
勤労千葉

87.3.3

No. 675

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二九三五(六)公衆電話二七二〇七

当局、権力、土屋一派の弾圧、敵対をはねのけ、ろっつ城態勢でストライキを防衛!

佐倉支部は、堀口支部長を先頭に一二〇名組合員一丸となって三月二日午前零時を期して自らの手でジェット燃料列車を止める歴史的な三月決戦ストライキに突入した。

昨年三月三〇日、新生佐倉支部結成以来未約一年、「本部」革マル反動分子と裏切り分子土屋一派との連日連夜にわたるし烈な闘いの中で執行部と組合員、組合員相互の間の信頼感と連帯感、かつてなく強まり、そしてなによりも、二月十九日以降、一週間にわたるスト破り助役機関士線見阻止闘争を闘う中で佐倉支部の団結力はさらに強まり、高められ、今、この団結力、組織力をもって三月決戦ストライキに突入したのである。

二五〇名の結集で熱気あふれるスト突入前夜集会

佐倉支部における三月決戦スト突入前夜総決起集会は、佐倉支部をはじめ各支部動員者と昼間の成田市での反対同盟主催の全国総決起集会に参加した動員者も合流して総勢二五〇名が結集して十七時五〇分より機関区庁舎前で開催された。

集会は、田中本部青年部長の音頭で全体がスト貫徹の決意を込めた力強いシュプレヒコールを行なった後、高橋本部執行委員の司会のもとで、まず本部闘争委員会の代表して関川委員長から「あらゆる困難をのりこえて、ストライキ貫徹にむかって最先頭で闘い、抜く」との固い決意が表明された。

続いて、新小岩、幕張、勝浦、館山の各支部代表から「佐倉・成田の全組合員と共に三月決戦を闘う」との決意表明が行なわれた。

さらに、吉岡本部教宣部長からの「わが勤労千葉の三月決戦ストライキのもつ意義をはっきりと自覚し、確信をもって一三〇〇組合員が一丸となって、あらゆる弾圧とスト圧殺攻撃をはねのけ断固闘い抜こう」との基調報告を全体で確認し、最後に佐倉支部から堀口支部長、田中青年部長の決意表明

を受け、ただちに佐倉支部青年部を先頭に構内デモに出発。デモの途中で、反対同盟の北原事務局長、故戸村委員長の奥さんをはじめ五名の同盟役員がかけつけ、北原さんから「勤労千葉の闘いは、労働者の鏡だ、三里塚闘争は、全人民の闘いで勝利させなければならぬ。佐倉の皆さん、動労『本部』革マル分子からの妨害や敵対をねのけて闘って欲しい……」との熱い連帯のあいさつを受け、十九時すぎ、組合歌合唱・団結ガンパローを三唱して全体集会・デモを終了した。

こうして集会は、あと数時間にせまった歴史的ストライキを、当局・権力の不当弾圧・介入を粉碎し、「本部」土屋一派の公然たる裏切りと敵対をはねのけて断固貫徹する決意を固めるものとして圧倒的にかちとられたのである。

この間、国鉄当局は、権力・公安、局課員を機関区周辺に配置しわれわれの集会に対し弾圧・介入せんとしてきたが、われわれの一致みだれぬ断固たる集会とデモに圧倒され、一指もふれることができなかったのである。

食事・休憩の後、支援にかけつけた日本原の鷺田さん、杉並区議の長谷川さん、北富士闘争連絡会の安藤さんを迎えて検修詰所で集会を開く。

いよいよ、二十三時三〇分、スト突入集会だ。佐倉をはじめ各支部からのスト防衛、ろっつ城動員者約六〇名が結集する中で堀口支部長が本部からのスト突入指令を読み上げる。結集した一人一人の顔に当局・「本部」土屋一派のスト破りを許さず闘う決意がみなぎる。いざ、スト突入だ。

「本部」土屋一派の裏切りとスト破りを許すな

一方、「本部」土屋一派の佐倉支部三役(山下(庄)、鈴木(正)、土屋幹)は、何んと三月五日まで年休をとってくもがくれをきめこみわれわれのストライキ初日には全く職場に姿を現わさなかったのだ。

そして、本部派組合員に対し、当局は公安の警備を要請し、機関区庁舎に入ったときから機関車に乗るまで公安・当局がつきつきりて警護を行なっているのである。こうして、佐倉支部におけるストライキ初日の闘いは、わが勤労千葉のストライキに敵対し、当局の側に身をよせ、協力するもののハレシな姿を全組合員の前にさらけだしたのである。

われわれはこの初日の闘いの成果をもって三月決戦スト貫徹にむけ奮闘しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ